

南アメリカ州の指導にあたって ～開発と環境を主題に

●『学習指導要領解説』の抜粋

世界の諸地域について、以下の(ア)から(カ)の各州に暮らす人々の生活の様子を的確に把握できる地理的事象を取り上げ、それを基に主題を設けて、それぞれの州の地域的特色を理解させる。(ア)アジア (イ)ヨーロッパ (ウ)アフリカ (エ)北アメリカ (オ)南アメリカ (カ)オセアニア

(オ)南アメリカ：＜主題例＞森林破壊と環境保全

“なぜアマゾンの森林が減少し、サトウキビ栽培が増加しているのか”という問いを立て、アマゾンの森林破壊の実態、サトウキビ・小麦の生産地域の変遷、バイオ燃料の普及、焼畑をする人々の暮らし、環境保全に対する農民の意識や政策などを追究すると、環境問題やエネルギー問題を地域に即してとらえられ、南アメリカの地域的特色の理解につながる。

●指導上の留意点

アマゾン川流域には、700万km²におよぶ広大な熱帯雨林が広がっている。アマゾンの森林は8か国にまたがり、ブラジルの国土のおよそ40%におよぶ。そのアマゾンの原生林が乱開発の影響で急速に消失している。アマゾンの森林は地球の生態系全体からみて貴重な存在であるとともに、アマゾン先住民にとっては、伝統的な狩猟採集生活をするうえで必要不可欠なものである。一方、BRICsの一員として経済発展が著しいブラジルにとっては、アマゾン地方とともに、ブラジル高原の乾燥したカンポ・セラード地方の開発が、国内の経済発展と地域格差の解消のためには避けられない。これらの事例を用いて、森林破壊の実態とその原因、持続可能な開発のあり方を考えたい。また、ラテンアメリカを特徴づける多様な人種民族構成、モノカルチャー経済の現状、急速な工業化のために生じた膨大な累積債務など、ラテンアメリカの現状と課題を多面的にあつかいたい。

●ワークシートの単元構成 <想定する時間数：全体で4時間>

時数	単元名	学習内容	主な学習項目	ページ
主題 .. 開発と環境	1 南アメリカ州のあらまし	主な国々の名称と位置	多様な人種と民族	p.33
	2 南アメリカ州の農業と開発	南アメリカの農業の特徴 経済の停滞と成長	モノカルチャー経済と一次産品 累積債務	p.34
	3 南アメリカ州の環境問題	アマゾン川流域の開発	森林の減少、持続可能な開発	p.35
	4 南アメリカ州のまとめ	大きくとらえた南アメリカ 開発と環境からみた南アメリカ	白地図上に主な地名や語句を整理する	p.36

南アメリカ州 ①

南アメリカ州の あらし

●学習のねらい●

南アメリカ州もふくめたラテンアメリカにはどのような国があるだろうか。地図帳を使って、国ごとに異なる多様な人種・民族構成を調べてみよう。

メキシコ以南の中央アメリカと南アメリカをラテンアメリカといいます。カトリックのキリスト教徒が多く、ブラジルがポルトガル語圏^{けん}である以外は、ほとんどがスペイン語圏です。かつてこの地域がスペイン、ポルトガルの植民地だったためですが、アジアやアフリカとちがって、19世紀前半にはほとんどの国が独立を果たしました。それぞれの国は、先住民・白人・黒人など多様な人種・民族によって構成されています。

ラテンアメリカには、特定の一次産品に依存^{いそん}したモノカルチャー経済を特徴とする国が多くあります。そのような国では大土地所有制^{おおいしぢぞうせい}が残り、一部の大地主が農地の大部分を所有し、多くの土地をも

たない農民は農業労働者として働いています。欧米向けに輸出されるコーヒーやサトウキビなどプランテーションはその代表ですが、ほとんどは欧米の多国籍企業^{たこくせききぎやう}の支配下にあります。一方で、農業の機械化によって仕事を失った農民は、都市に流入し、大都市では貧しい人たちが住むスラムが形成されました。

このような問題をかかえながらラテンアメリカは、第二次世界大戦後、モノカルチャー経済から抜け出すために、国際通貨基金（IMF）などから資金を借り入れて工業化をめざしましたが、引き替えに大きな借金を抱えることになり、現在でも多額の累積債務^{るいせき}に苦しんでいます。

課題 1 ラテンアメリカの多様な人種・民族は、それぞれ何とよばれているか書いてみよう。

- ① 植民地支配者の子孫で新大陸生まれの人々 ()
- ② ヨーロッパ系白人と先住民の混血の人々 ()
- ③ ヨーロッパ系白人とアフリカ系の人々との混血 ()
- ④ ラテンアメリカの先住民 ()

課題 2 次の表は、ラテンアメリカ諸国の民族構成と人口を表しています。これらを参考に、①～⑥の欄にあてはまる国名を下の□から選んで書いてみよう。

民族構成	総人口	国名
ヨーロッパ系 55% アフリカ系 6% メスチーソおよびムラート 38% 先住民 1%	1億7,850万人	①
ヨーロッパ系 94% アフリカ系 3% 先住民系 1% その他 2%	420万人	②
先住民系 55% メスチーソおよびムラート 30% ヨーロッパ系 15%	880万人	③
アフリカ系 95% その他 5%	830万人	④
ヨーロッパ系 97% 先住民系 3%	3,840万人	⑤
メスチーソおよびムラート 66% 白人 22% アフリカ系 10% その他 2%	2,570万人	⑥

(『ワールドアルマナック 2009』より)

ベネズエラ	ボリビア	ブラジル	ハイチ	コスタリカ	アルゼンチン
-------	------	------	-----	-------	--------

課題 3 なぜラテンアメリカにアフリカ系の人々がいるのか、その理由を調べてみよう。

南アメリカ州 ②

南アメリカ州の農業と開発

●学習のねらい●

ラテンアメリカの多くの国は、特定の一次産品に依存するモノカルチャー経済である。モノカルチャー経済の現状と課題について考えよう。

20世紀初頭まで、ラテンアメリカの国々は、欧米向けに輸出されるコーヒー、小麦、銅などに依存したモノカルチャー経済が主流でした。しかし、1929年の世界恐慌以降、一次産品は価格の変動が激しく、かつ工業製品と比べて取引の条件も悪いことから、工業化がめざされました。そのため、国際通貨基金（IMF）などから多額の資金を借り入れましたが、輸出競争力が弱いために、工業化が進まず、ブラジル、メキシコ、アルゼンチンなどは、多額の借金（債務）をかかえることになりました。

しかし、経済のグローバル化が進んだ現在、豊かな一次産品やその加工品の輸出は、再び注目を浴びるようになってき

ました。例えば、輸出品をみると、コーヒーや砂糖などの伝統的な一次産品から、生鮮野菜、果物、花、食肉類、水産品などに広がっています。また、貿易相手国として中国の存在が大きくなってきています。1995年～2007年で、中国のラテンアメリカ諸国からの輸入額は18.4倍に急成長しています。現在でもラテンアメリカ諸国の輸出の大半は一次産品ですが、中国やインドの経済成長によって一次産品の需要が増え、2004年～2008年にかけて一次産品の価格は、原油が3.5倍、カカオ豆が4.3倍、すずが3.2倍と上昇しました。この結果、ラテンアメリカ諸国の経済成長が続いています。

課題 1 次の表は、ラテンアメリカ主要国の輸出総額に占める一次産品の割合を示しています。これを見ながら、下の①～③の問いに答えてみよう。

	一次産品の輸出比率 (%)	一次産品上位3品目の年平均割合 (%)		一次産品上位3品目
	2006年	1975～77年	1997～99年	1997～1999年
アルゼンチン	49.5	34.5	14.3	鉄鉱石、コーヒー、砂糖
ブラジル	68.4	34.5	24.0	燃料、植物性油かす、小麦
チリ	89.0	62.2	47.3	精銅、銅鉱石、海産物
ボリビア	89.8	68.4	23.3	植物性油かす、燃料、大豆油
コロンビア	65.3	65.0	55.2	燃料、コーヒー、生材料
メキシコ	24.4	35.2	15.9	燃料、コーヒー、海産物
コスタリカ	35.6	61.1	40.4	バナナ、コーヒー、生材料
キューバ	73.4	91.6	49.1	砂糖、タバコ、海産物

(宇佐美耕一ほか「図説ラテンアメリカ経済」より)

① 2006年における一次産品の輸出比率が高い順に、5か国の国名を書き出してみよう。

() () () () ()

② 上の表の「一次産品上位3品目」で各国に共通する特徴をあげてみよう。

③ 近年、各国の一次産品輸出比率が上昇しています。その原因を調べてみよう。

課題 2 ラテンアメリカ諸国は、多額の累積債務に苦しんでいます。その原因を調べてみよう。

南アメリカ州 ③

南アメリカ州の
環境問題

●学習のねらい●

アマゾン川流域の熱帯林破壊の現状と課題について調べてみよう。

ラテンアメリカが直面する最大の環境問題は、熱帯林の減少です。アマゾン川の流域面積は約650万km²で8か国にまたがり、ブラジルの国土面積の約40%にあたります。この地域では15世紀以降、欧米向けにコーヒーなどの熱帯性作物が栽培されてきましたが、19世紀後半からは天然ゴムや金・すず・銅・ボーキサイトなどの鉱物資源の開発が進み、1950年代の経済開発によって大規模な森林破壊が始まりました。ブラジル政府は、アマゾン横断道路などの道路の整備を進めるとともに、アマゾン平原への入植政策を進めました。この結果、1960年に200万人に過ぎなかったアマゾ

ン地域の人口は、2000年には2000万人に達しました。森林が伐採された場所や、開拓地の95%が、町や村の周囲25km以内にあります。森林破壊が町や村の周辺で起きていて、人口増加が深刻な環境破壊をもたらしています。実際、2000年—2005年には450万haの森林が消失し、現在でも毎年270～300万haの森林が消失しています。

さらに、近年の急速な森林消失の原因として、アメリカ合衆国などの先進国や、中国などの新興工業国向けに、大豆、果物、野菜、食肉、切花などの農産物の生産、輸出が増大し、そのための農地が必要とされていることがあります。

課題 1 次の表は、2000年から2005年間の、ラテンアメリカにおける森林面積の推移を表しています。メキシコを例に、空欄に数値を書き込んでみよう。また、下の①～③の問いに答えてみよう。

	面積 (万 ha)		面積増減 $A - B = C$ (万 ha)	年変化率 $C \div A$ (%)
	2000年 (A)	2005年 (B)		
メキシコ	6,554	6,424	130	2.0
コスタリカ	238	239		
ベネズエラ	4,915	4,771		
ボリビア	6,009	5,874		
ブラジル	49,321	47,770		
チリ	1,583	1,612		
ホンジュラス	543	465		

(宇佐美耕一ほか『図説ラテンアメリカ経済』より)

- ① 森林面積が増加した国を二つあげてみよう。
(国名) (国名)
- ② 森林消失の面積が最も広い国名と、その面積を書いてみよう。
(国名) (森林消失面積 万 ha)
- ③ 森林面積の減少率がもっとも大きい国はどこか書いてみよう。
(国名)

課題 2 多様な動植物の宝庫であるアマゾンの原生林を、できるだけ守りながら開発する(持続可能な開発)ためには、どうしたらよいのでしょうか。日本などの先進国が果たすべき役割とともに考えてみよう。

南アメリカ州 ④

南アメリカ州のまとめ

●学習のねらい●

地図帳を使って、白地図上に語句や地名を記入し、開発と環境の視点から、南アメリカ州についてまとめよう。

南アメリカ州の特徴を大まかに見てみましょう。自然では、アマゾン川流域にはセルバとよばれる熱帯林が広がり、ラプラタ川流域にはパンパとよばれる草原が広がっています。アンデス山脈の高地では、冷涼な気候です。15世紀末にコロンブスが西インド諸島に到着するまで、インディオとよばれる先住民が生活していましたが、16世紀からスペイン人やポルトガル人がやって来て、彼らを支配し、この地域を植民地としました。そのため、多様な人種・民族構成となっています。また、ブラジルやペルーには、日本の移民が多く、その子孫は日系人とよばれ、現在では日本へ働きに来ている人も多くいます。農業では、アマゾン川

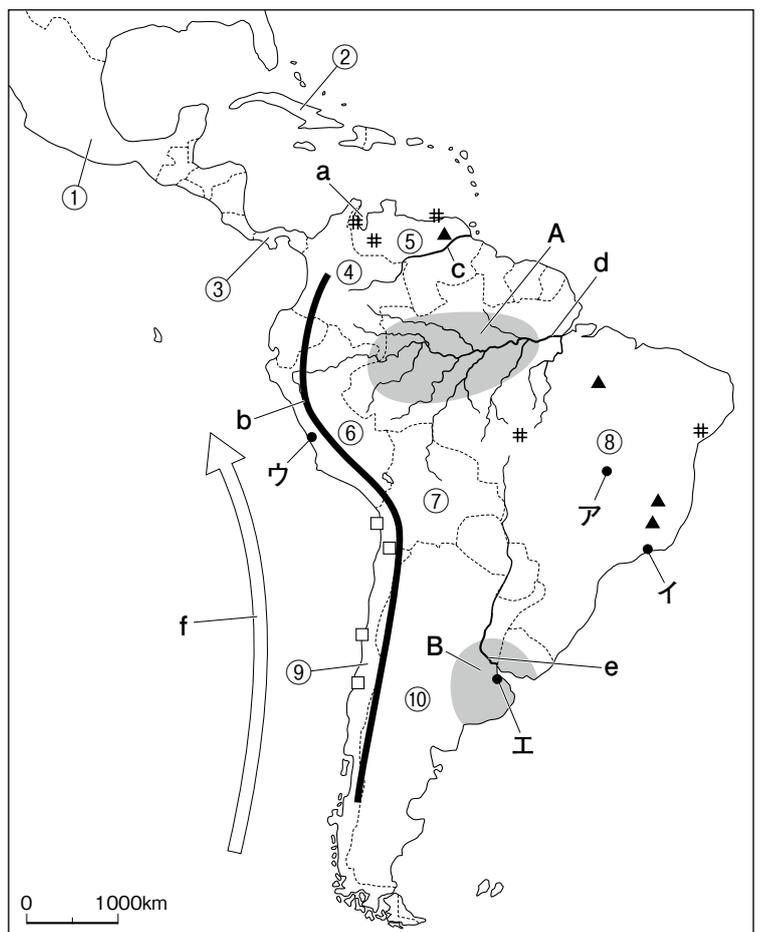
流域の焼畑農業のほか、大規模なプランテーションがあります。食料用や燃料用の作物の農地を得るため、熱帯林が年々消失している問題があります。一方、パンパの草原では放牧が行われています。南アメリカ州は、豊富な鉱産資源に恵まれています。特に鉄鉱石が豊富に採れるブラジルは、近年BRICSの一角として経済成長も著しく、航空機の製造などの高度な機械工業も見られるようになりました。しかし、経済の発展にともなって、貧富の差も大きくなっています。都市部でのスラムや、麻薬犯罪などの問題は、2016年のオリンピック開催をひかえ、大きな課題となっています。

課題 1 下の地図の①～⑩には国名、ア～エには都市名、a～fにはあてはまる適切な語句、AとBには特徴的な植物の広がりやの名前を記入してみよう。

課題 2 下の地図に記号で示された鉱産資源はそれぞれ何か、凡例中の（ ）に答えてみよう。

課題 3 下の地図に、北回帰線と南回帰線を青色、赤道を赤色で記入してみよう。

①	②		
③	④		
⑤	⑥		
⑦	⑧		
⑨	⑩		
ア	イ		
ウ	エ		
a	湖	b	山脈
c	川	d	川
e	川	f	海流
A	B		



【凡例】

() ▲ () □ ()